

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教職員は「教学相長」の創立時精神を踏まえ、「チーム布施高」として、その資質・能力の向上を図り、教育内容の充実と環境整備につとめ、

1. 基礎学力・語学力を確実に身につけ、思考力・判断力・表現力・行動力を備えた生徒の育成に努める。

2. 自他を認め、まごころと思いやりを持つ心身ともに健全で規律ある生徒の育成に努める。

3. グローバル社会を生き抜くため、個を磨き、自己成長を習慣化できる人間の育成をめざす。

2 中期的目標

1、確かな学力の育成（4 ツール：授業、試験、課題、補講習を磨く）

（1）授業力向上

ア プロセスアプローチの。各学年の教科毎に Input と Output を定義し、投入する資源、陣容、運用方法（手順・技法）、評価指標（監視測定項目と目標値）を明確にする。年度毎にプロセススタート図の作成

イ アンケートの活用や公開授業・研究授業の推進。学校教育自己診断における「学力のつく授業が多い」の項目で、肯定的回答 20%増 (H26 年度は 56%)

ウ I C Tを授業に積極活用することで、わかる授業、興味を引く授業を展開する。

（2）自学自習への仕掛け

エ 家庭学習課題の充実、定期テスト・朝の小テスト・全国模試の内容充実、新入生対象学習合宿の充実、補習・講習の充実

オ 校内自習環境の整備推進

カ P T A活動での保護者への働きかけ

（3）進路保障

キ 普通科専門コースを発展させ、将来生徒たちがなりたい自分を実現する選択の幅を広げる。（H26 年アドバンスコース 120 名を H29 年 160 名）

ク H 2 8 年度卒国公立合格者 20 人、関関同立現役合格者実人数 80 人以上をめざす。（H26 年度卒 現役実人数：国公立 2 名、関関同立 36 名）

2、健全な心身の育成

（1）自己を厳しく律する力と自尊心の育成

ア 挨拶指導・遅刻指導の充実により、H29 年間総遅刻数H26 年度（総遅刻数）比 50%減の実現

イ 時間マネジメントを重視した自治会行事の充実、1, 2 年生部活動の加入率 85%以上の実現（H26 年 5 月時点 80%）

ウ 教育相談委員会の活性化、個別生徒支援の充実を図り、学校教育自己診断における「先生は悩みや相談に親身になって応じてくれる」の肯定的回答 H29 年 70%以上を達成する。（H26 年生徒 51%、保護者 59%）

3、夢・志のはぐくみ

（1）系統的なキャリア教育による志や目的意識の醸成

ア FROM NOW（総合的な学習の時間）や LHR・学校行事の見直しと充実。

イ 国際理解教育の推進

（2）地域連携強化による地域に大切にされる学校づくり

ウ 保護者、中学生徒、中学校教員への授業公開。新たに導入したワークショップ形式の保護者と教職員の意見交換会の継続・充実に努める。

エ 近畿大学をはじめ他大学との連携による出前講義・体験講義の充実を図る。また、司馬遼太郎記念館との連携の充実を図り、志学に位置付けた「司馬遼太郎学習プログラム」「菜の花忌運動」を展開する。

4. 機能的な組織運営

（1）情報化の推進と業務効率U p

（2）運営委員等のミドルリーダーの育成

（3）若手教員の育成

（4）防災教育・訓練の充実

（5）広報活動の充実

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成 27 年 12 月実施分〕	学校協議会からの意見
・「学力のつく授業が多い」「教え方を工夫している先生が多い」の生徒の肯定的回答（平均値）が 66.5%と昨年（56%）より 10%U p した。学力向上と進路保障を最大のミッションとして、教員が 4 ツール（授業、試験、課題、補講習）を磨いてきた結果と考えられる。ただ、教員側の 85%とは依然かい離があり、生徒たちに手ごたえのある授業力向上に引き続き取り組んでいく必要がある。 ・「学校は悩みや相談に親身になって応じてくれる」の項目は、昨年までは「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」との質問内容であったため、教員の回答と大きくかい離（生徒 51%、教員 87%）していたが、今年は生徒 63%、教員 73%と距離が少し近づいてきた。引き続き教育相談係や担任団、保健部で生徒の相談にきめ細かく寄り添っていく必要がある。 ・「I C T機器が各教科で活用されている」は生徒の肯定的回答が 45%であり、教員の 62%とかい離している。興味・関心を引き、解かりやすい授業にむけ引き続き I C Tを活用した授業に取り組んでいく。 ・「国際理解教育に力を入れている」の生徒と保護者の肯定的回答は 56%で昨年の 52%よりやや改善。海外短期語学研修や訪日高校生との交流等で異文化に触れる機会を設けているが、国際理解教育は各教科の授業の中で取り組むことが重要であり、次年度はそれを意識した授業展開を実施して	第一回協議会（学校改善に向けて） ・ 8 時間耐久勉強会は、効果の見極めが大切、勉強会が成績の伸びにつながるものが生徒の実感となるようにする。（模試等の事前・事後の比較） ・ 遅刻と成績の相関関係を一人ひとりの生徒について Data を検証。 ・ センター入試については、受験者数だけでなく 5 教科 7 科目での受験者数が重要。 ・ 生徒の学力が伸びていることを教員側も認識し、生徒の可能性を信じ叱咤激励もする。 第二回協議会（学校改善に向けて） ・ 国語力が伸びていないのは、本を読まないこと、スマホ依存等が原因。携帯端末を利用しての授業、逆転の発想も余地がある。ネットの情報を利用することにより、クリエイティブでなくなる。100 を教えて 50 を考えさせることより、50 を教えて、考えさせ 70 を定着させる教育もある。 ・ 国語力向上に向けて、「国語力は家庭と学校で養われる」「国語力を養う基本は（文章語）にして語る」「学校現場は、国語建設の現場である」。話し言葉：情緒性、感情性 書き言葉：論理的、考察的（書き言葉の衰退は、読む力の衰退） ・ 読書は、他者から自分を切り離し、個として自立的に考え、内省し、独自の視点を持つことができる。（学校）:難解な本を読ませ要約させる （日常）ライトな本を読ませる （小説）想像力が訓練される→様々なことに応用「文学は実学」 ・ ミニペーパーの活用で授業で何を学んだのかまとめる→内容のある質問に繋がる、的確に要約できる→①要約力 ②段取り力 ③自ら学ぶ力に繋げる。

府立布施高等学校

いく必要がある。	・思考力、判断力、表現力、行動力の育成に向けて、総合的な学習の時間等を活用して考える力の育成のための探求活動が必要。学校行事の中でも探究活動を行い次に繋げていく。 ・夢、志のはぐくみについては、将来をどこまで考えさせるか、安易な方向に向かないように早い時期から目標を持たせる。 第3回協議会（学校改善に向けて）H28. 2. 5 ・クラブ活動の参加率で、一年生春に 83％であったものが、二年生春に 76％に落ちているのが気になる。またセンター受験者数についても、過去最高の受験者数（157 名）になったとはいえ、布施に入学してくる生徒の学力や他校と比較するともっと多くてもよい。どこか逃げの姿勢があるのではないか？ ・生徒が逃げないためには、①生徒自身が目標設定して自分でP D C Aのサイクルを回すようにする。②魅力づけをしてやる。例えばセンター試験のメリットを生徒と保護者にも伝える努力をする。③教える側が生徒の考える力を授業の中で引きだしていく工夫が大切であり、I C T研修等で全教員が技量を上げていく必要がある。
----------	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
確かな学力の育成	（１） 授業力向上 ア プロセスアプローチ	ア 学年教科毎にプロセスのタートル図作成と深化実践（４ツールの高位平準）	ア 授業アンケートで「学力の付く授業が多い」「教え方を工夫している先生が多い」の生徒肯定的回答の 10％増（H26 年 56%）	ア 学校教育自己診断「学力のつく授業が多い」「教え方を工夫している先生が多い」生徒の肯定的回答平均値 66.5％（○）
	イ 授業アンケートの活用や公開授業、研究授業の推進 ウ ICT 活用授業	イ 教員相互の授業見学（少なくとも教科内授業）と Review 会の実施 ウ プロジェクター、iPad を活用した授業の実施で、生徒の興味や関心を引くとともに考える時間を創造する。	イ 全教員が必ず複数回は授業見学参加。 ウ ICT を活用した教員 40 名以上、授業アンケートで「ICT 機器が各教科で活用されている」肯定的回答 50%以上（H26 年度 40%）	イ 全教員の平均授業見学数 2.2 回（○） ウ I C Tを活用した教員 40 名（○） 学校教育自己診断で「ICT が各教科で活用されている」生徒の肯定的回答 45％（△）
	（２） 自学自習 エ、オ、カ 授業以外の学習時間確保	エ、オ、カ 家庭学習課題の充実。学習合宿実施。年間補講、講習計画と実践。サテラインゼミの実施。夏休み 8 時間耐久勉強会実施 全国模試（3 回/年）・学力生活実態調査（2 回/年）実施	エ、オ、カ 4 月と 11 月に家庭での学習時間を調査。1、2 年生は平日 60 分以上、3 年生は平日 120 分以上。 学習合宿後のアンケートで「学習意欲高まった」の肯定回答 85%以上	エ、オ、カ 1 年生 4 月 59 分 11 月 47 分（○） 2 年生 4 月 34 分 11 月 43 分（△） 3 年生 4 月 53 分 11 月 101 分（○） （予備校・塾での学習時間は含まず） 1 年生学習合宿後のアンケート結果 「学習意欲が高まった」肯定的回答 94％（◎）
健全な心身の育成	（３） 進路保障 キ、ク 専門コースの内容充実	キ、ク 2 年生カリキュラムは体育 1 減し理科 1 増（理系）、国語演習 1 増（文系）	キ、ク アドバンスコース中心に国公立 14 名、難関私立 64 名 新 2 年生が 3 年生春の学力生活実態調査で 2 年生春レベルを維持	キ、ク 国公立 7 名 関関同立 現役述べ 158 名（実数 73 人）（◎） 3 年生スタサポ結果待ち
	（１） 自律と自尊心育成 ア 挨拶指導、遅刻指導 イ 時間マネジメントを重視した自治会活動、クラブ活動 ウ 教育相談の充実	ア 朝の立ち番、登校指導週間の実施 遅刻者の即日保護者連絡 イ 体育祭、文化祭授業カット見直し。新入生への部活動入部促進。アルバイト原則禁止の徹底 ウ ・教育相談委員会の定例化と充実 ・支援教育コーディネータ中心に支援委員会を充実	ア 年間総遅刻件数 3500 以下（H26：4473） イ 1, 2 年生春の部活動入部率 83%以上（H26 年 5 月時点:80%） ウ 学校教育自己診断「先生は親身になって相談に応じてくれる」肯定回答 60%以上（H26 年 51%）	ア 総遅刻件数 2468 前年比 45%減（◎） イ 1, 2 年生春部活加入率 1 年生 84％（◎） 2 年生 76％（△） ウ 学校教育自己診断「学校は悩みや相談に親身になって応じてくれる」 肯定的回答 63％（○）

府立布施高等学校

夢・志のはぐくみ	(1) キャリア教育 ア 総合的な学習・LHRの充実 イ 国際理解教育の推進 (2) 地域・保護者連携強化 ウ 近大や他大学との連携・司馬遼太郎記念館との連携	ア From Now (総合的な学習)・LHRの見直し イ 国際交流の推進と国際理解教育の推進 オーストラリア短期語学研修実施 短期留学生の受け入れ アジア高校生団体受け入れと交流 ウ 体験講義・出前講義等の実施と充実。 司馬遼太郎学習プログラム、 菜の花忌運動の展開 エ PTA活動と連動させた授業見学週間(2回/年)の実施。中学生・その保護者の授業見学。	ア、イ From Nowの見直しで、自己の確立とコミュニケーション能力、さらに異文化と共生できる資質や能力を育成する。 「国際理解教育に力を入れている」肯定的回答 50%以上 (H26 42%) ウ 司馬遼太郎学習プログラム 1年生全員。 菜の花忌運動 1、2年生参加継続 1、2年生全員がオープンキャンパス参加 エ 授業見学参加者保護者 50人以上、中学生 50人以上	ア、イ From Nowのキャリア教育では、業者丸投げではなく、高校側から大学・学部を指定して本校に来てもらい、より高みを目指す意識づけを行った。(○) オーストラリア短期語学研修、訪日中国・台湾の高校生交流実施 (○) 「国際理解教育に力を入れている」生徒・保護者の肯定的回答 56% (○) ウ 司馬遼太郎事前学習と記念館訪問で、生徒は身近に作家活動をとらえた。 菜の花忌運動を通じて、地域交流や地域の美化意識の向上を図っている。(○) エ PTA総会や交流会を利用して保護者の授業参観を実施 70名以上参加 (◎) 中学生向け模擬授業は実施できなかったが本校での学校説明会には 6月、8月、11月で 1050名参加 (◎)
機能的な組織運営	(1) 情報化の推進と業務効率 Up (2) 若手リーダーの育成 (3) 若手教員の育成 (4) 防災/安全教育と訓練の充実 (5) 広報活動の充実	(1) ア 内部データの電子化、情報共有化。Mailの活用、職員会議ペーパーレス継続推進。 (2) イ ミドル/若手教員を積極登用 (3) ウ 指導教諭・教科指導教員を中心に OJT 実践 新任教員への校内研修実践 (4) エ 防災訓練の実施。校内安全点検実施。 (5) オ アドミッションポリシーの明文化と学校説明会の充実。中学・塾訪問実践。学校紹介リーフレット新作	ア ペーパーレス職員会議継続 イ 2年生学年主任に 20代の登用。 ウ 新任教員と二年目教員に OJT と校内研修実践 (5回/年) エ 不安全事故ゼロ オ 入試倍率、前年度後期入試志願者倍率以上 (H27 年春 1.26)	ア 職員会議での校長説明はすべてパワーポイントで行う。ただし、各分掌の共有情報については依然としてペーパーが残っている。(○) イ 2年生学年主任は若返り実施 (○) ウ 新任教員 3名と二年目教員 1名について、定期テスト時に、校内研修 5回実施。指導教諭、教科指導教員、首席、教頭、校長が参加 (○) エ 安全パトロール実施等で不安全事故ゼロ (○) オ 入試倍率 1.38